

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
仙台コミュニケーション アート専門学校専門学校	平成19年3月29日	学校長 濱田 敏幸	〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺2-1-11 (電話) 022-292-2122																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人 滋慶文化学園	平成8年3月13日	理事長 覚野 博夫	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町21-2 (電話) 03-6734-2939																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽コミュニケーション科昼間1部	平成21年文部科学省 告示第21号																			
学科の目的	本校は、本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、文化・教養専門課程及び衛生専門課程を設置し、音楽ビジネス、商業デザイン、エコロジー、食並びに健康に関する専門的知識並びに技能を修得させ、もってその分野で貢献できる専門家及び指導者の養成を図ることを目的とする。																					
認定年月日	平成27年2月17日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験																
2	昼間	1800時間	300時間	540時間	960時間	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
80人	77人	1人	5人	25人	30人																	
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日 ■3学期:			成績評価 ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、出席状況にて評価を実施																		
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 3月20日～4月9日			卒業・進級 条件 出席率と学科試験点数により、進級・卒業に必要な単位を 取得していること。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任制度、三者面談、 SSC(チュードントサービスセン ター)			課外活動 ■課外活動の種類 同好会・サークル活動など ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 主として、レコードメーカー及びプロダクションとの契約(デ ビュー)を目指す。 ■就職指導内容 業界研究指導、業界研修前指導、企業説明会前指導、履歴 書作成指導、面接指導、ビジネスマナー指導 ■卒業生数 32 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 : 0 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 ・進学者数: 5 人 ・デビュー活動(音楽活動) 27 人 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3 ■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>照明技術者2級技能認定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>舞台機構調整・技能検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ESDコミュニケーションスキルアップ検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当す るか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	照明技術者2級技能認定	③			舞台機構調整・技能検定	③			ESDコミュニケーションスキルアップ検定	③		
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
照明技術者2級技能認定	③																					
舞台機構調整・技能検定	③																					
ESDコミュニケーションスキルアップ検定	③																					
中途退学 の現状	■中途退学者 5 名 平成29年4月1日時点において、在学者81名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者76名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更、病気・治療、学生生活不適合 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補修、課題提出			■中退率 6.2 %																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 滋慶特別奨学制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																					
当該学科の ホームページ URL	http://www.sendai-com.ac.jp																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携について、従来、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現にむけ、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、講師授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催しています。この度、新たに設置する教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見も、より詳細に教育内容に反映させることを目的とします。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっています。また、学校運営においては教務組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、このために従い、委員会を運営します。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鹿野 佐一	内閣府公認公益社団法人 全日本司厨士協会 関東総合地方本部宮城県本部	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
榎澤 明	Bistoro Hare-masu	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
目等 進	(一社)日本音楽スタジオ協会(JAPRS)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
小池 正邦	㈱東北共立	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
橋本 徳郎	㈱フォーパックス	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
溝川 誠司	公益社団法人 日本広告制作協会 教育支援部会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
今野裕介	㈱エクスマインド	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
佐山 義則	公益財団法人日本生態系協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
遠藤 敏也	㈱RIDGEWYN'S JAPAN	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
今野直明	Patisserie genki	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
吉田 孟史	学校法人滋慶文化学園 常務理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
濱田 敏幸	仙台コミュニケーションアート専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
田中 実	仙台コミュニケーションアート専門学校 副校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
村山 洋樹	仙台コミュニケーションアート専門学校 事務局長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
坪沼 和寛	仙台コミュニケーションアート専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
石川 一也	仙台コミュニケーションアート専門学校 副校長/教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
渡邊 康祐	仙台コミュニケーションアート専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
坂本 訓勸	仙台コミュニケーションアート専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数及び開催時期:年2回6月、2月に開催予定。また、委員会欠席者に対しては、個別に意見聴取を行うなど必要に応じて適宜分科会を開催することがあります。

(開催日時)

第1回 平成29年 6月17日 13:30～15:30

第2回 平成30年 2月17日 13:00～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

退学率の軽減について意見交換をおこなった。また、音楽コミュニケーション科が主体的に取り組んでいるミュージカル「Hospital of Miracle」の演出等について具体的な改善内容について検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

3つの教育理念(実学教育・人間教育・国際教育)を掲げ、業界が求める人材を業界と共に育成する(産学協同教育)という考えのもと、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、学生が目指す職業に必要な知識・技術を指導している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。非常勤講師と学校が協議し作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標への達成度並びに学期毎の定期試験の結果をもって総合的に評価されます。また、授業実施後の連携も密にし、以降の授業改善にも反映させます。更に、業界研修(インターンシップ)を実施し、企業の担当者の指導の下、現場体験を深め、更なる即戦力としての知識・技術等の習得を行います。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンサート制作1	共同作業においての人間関係を積極的に保つためのマナーを実際の作業を通じて学び、コミュニケーション力を実習的な作業を通じて学び、コミュニケーション・スキルを高める訓練をします。	流行天国工房、THE MODERN WORLD、有限会社 ナオプラン
PA実習1	ステージ上を効果的に演出する技術としてのPA、ライティングについて、基本的な機器のオペレーションから現場までのコミュニケーションまで、実習を通じて学びます。	株式会社 東北共立
照明実習1	舞台を視覚的に演出する照明効果との関係で、さらにその効果を高める要素、音響、舞台美術についても学習します。	株式会社 東北共立

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。中途退学者防止に向けた「学生ひとり一人」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心に据え、ファカルティ・ディベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の二つの要素が年間を通じた授業内容に反映されるよう研修を行う。

①キャリア教育の視点、②ひとり一人を見て行く視点

さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議においてこの方針を共有し、授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を実施している。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

「パフォーミングアーツ教育部会」(連携企業等:滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年6月22日(木)、平成29年12月13日(水)、平成30年2月28日(水) 対象:教務部長、学科長

内容:音楽業界の動向と専門分野の実務に関する知識・技術について、国際プログラムにおけるケーススタディ、基礎力向上のための技術について

②指導力の修得・向上のための研修等

「FDセッションコーチ勉強会」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年6月7日(水) 対象:①FDミクロレベル・レベルアップ研修修了者で学科長クラス以上②FDミドルレベル研修修了者③FDマクロレベル研修修了者の何れかの条件を満たす者

テーマ:学習促進型コーチングを用いた事例検討におけるコーチ役を育成する

内容:○研修の目的○学習促進型コーチング(セッションコーチの役割と留意点、デモセッション)○スクリプトシートに基づく演習と振り返り

「FDマクロレベル研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年10月12日(木) 対象:事務局長、教務部長(教務責任者)

テーマ:滋慶学園の3つのポリシーから、自校の課題を明確にし、教育戦略を考え第6期5ヶ年計画において滋慶学園の3つのポリシーと各校の3つのポリシーを根付かせる 内容:○FD研修の体系と構成について○これまでのFDマクロレベル研修の学びについて(事例報告:学生情報システムについて)○昨年の研修後の各校の取組みについて(事例発表、グループワーク)○滋慶学園の3つのポリシーについて○滋慶学園の3つのポリシーに対する取組みについて(3つのポリシーの作成ポイント~中教審の資料より~、3P検討委員会と3つのプロジェクトについて)○学校の3つのポリシー具現化への取組みについて(各校ごとにワーク)○振り返り

「マネジメント研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年10月24日(火) 対象:学校長/顧問/各校・各企業のマネージャークラス

テーマ:マネジメント教育について

内容:○浮舟総長講演○滋慶学園グループの歩み○パネルディスカッション/テーマ:「スペシャリストのマネジメント」

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

「パフォーミングアーツ教育部会」(連携企業等:滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年6月22日(金)、平成30年12月(予定)、平成31年3月(予定) 対象:教務部長、学科長

内容:業界から求められる即戦力となる人材育成のための最新情報交換、教員に求められる知識・技術の修得

「デジタル伝送技術研修会」(連携企業等:一般社団法人日本音楽スタジオ)

期間:平成30年9月20日(木) 対象:音楽系専門学校教職員

内容:基礎的なデジタル伝送技術と今後のスタジオビジネスに向けた勉強会

②指導力の修得・向上のための研修等

「FDセッションコーチ勉強会」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年6月5日(火) 対象:①FDマイクロレベル・レベルアップ研修修了者で学科長クラスもしくは、学科長が推薦

する方 ②FDミドルレベル研修修了者③FDマクロレベル研修修了者

テーマ:学習促進型コーチングを用いた事例検討におけるコーチ役を育成する

内容:○研修の目的○学習促進型コーチング(セッションコーチの役割と留意点、デモセッション)○スクリプトシートに基づく演習と振り返り○まとめ

「学科長対象FDマイクロレベル研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年7月18日(水)～19日(木) 対象:学科長以上、またはそれに準ずる方

テーマ:①FDマイクロレベル研修の目的およびプログラム内容を理解し、スタッフの成長を促進することができる②「滋慶学園グループにおける授業のあり方」に沿って、授業改善のコーチングができる

内容:○FD研修の目的○滋慶学園グループのFD研修体系について○授業デザインとは○ティーチングの基本スキル○授業リフレクション○クラス運営のセオリー～専門学校の担任とは～○アクティブラーニングの理論と演習○公開授業までの取組みとその方法について

「マネジメント研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成30年10月24日(水) 対象: 学校長/顧問/各校・各企業マネージャークラス

内容:未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者とともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に活かすことを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	教育理念・目的・育成人材像

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員より各項目について3段階評価で概ね「優れている」との評価を頂いた。また、「コミュニケーション能力の更なる向上」「中途退学者の低減」「社会人基礎力の向上」など多くのご意見も頂いた。運営会議、リーダー会議、学科会議、全体会などで、これらの意見を共有に向けた検討・環境準備に取り組んでいます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
新田 彩香	卒業生	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生代表
光山 英子	保護者	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	保護者代表
小笠原 朋之	聖ドミニコ学院中学校高等学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	高等学校関係者
阿部 耕治	東八中央親交会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	地域関係者
小池 正邦	㈱東北共立	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
遠藤 敏也	㈱RIDGEWYN'S JAPAN	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
榭澤 明	Bistoro Hare-masu	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
今野直明	Patisserie genki	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
今野裕介	㈱エクスマインド	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()) 公表時期:平成30年9月30日

URL: <https://www.sendai-com.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実施方針において提起された目標(指導方法のイノベーション、中途退学防止、卒業後の離職防止等)を具体化するため、企業等からヒアリングを行い、業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法としては、業界関係者である兼任教員と教職員の間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等について審議を行い、そこで出された意見を反映させています。また、業界研修(インターシップ)においては、実習先へ教員が訪問し、学生の実習状況はじめ、学校・学科運営に対する意見を聞き取る等を実施し、意見集約とその反映を行っています。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、学校の沿革、建学の理念、その他の諸活動に関する計画
(2) 各学科等の教育	シラバス、進級・卒業要件等、学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等、資格取得、検定試験合格の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員数、学校組織図、教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、就職支援への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介、学校行事への取り組み状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い
(8) 学校の財務	財務資料
(9) 学校評価	学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ状況、外国の学校等との交流状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.sendai-com.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 音楽コミュニケーション科昼間I部) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			英会話	国際性を高める学習の一環として、日常英会話や学生生活、音楽活動に必要な英語表現を学びます。	1通	60	4	○			○			○		
○			音楽史	現在の音楽に至るまでの移り変わりを、様々な視点、音楽ビジネスや社会情勢との関わり、それぞれの国・地域の文化/文明、音楽美学/理論、等から考慮し、今後の音楽に対する先験的独創性、適応性を養います。	1通	60	4	○			○				○	
○			IT(information technology)	コンピュータを使用する上で必要となるネットの基礎知識、技術の基礎テクニックを習得します。	1通	60	4	○			○				○	
○			著作権	現代におけるビジネス側面の問題解決に必要な知識やコミュニケーションスキルを、コンピュータをツールとして学びます。	1通	60	4	○			○				○	
○			イヤートレーニング	様々な音楽様式の聴取と、その経験によって得られた理論を学び、記譜された音楽に対する順応力を高めます。	1通	60	4	○			○				○	
○			楽器知識	機材のオペレーションだけでなく、エンジニアとして必要な、電気的な知識や機器の構造の知識、調整、メンテナンスから学びます。	1通	60	4	○			○				○	
○			音楽理論 1	音の特性を礎に歴史と文化の中で編み出された楽典の基礎を学びそれぞれの創造過程において応用する原理までを学びます。	1通	60	4	○			○				○	
○			音楽理論 2	様々な音楽様式の聴取とその経験の融合によって得られた理論を訓練し(学び)演奏、制作、に活用する術を学びます。	2通	60	4	○			○				○	
	○		PA実習 1	ステージ上を効果的に演出する技術としてのPA、ライティングについて、基本的な機器のオペレーションから現場までのコミュニケーションまで、実習を通じて学びます。	1通	60	2		△	○	○				○	○
	○		PA実習 2	PA実習 1の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○				○	○
	○		照明実習 1	舞台を視覚的に演出する照明効果との関係で、さらにその効果を高める要素、音響、舞台美術についても学習する。	1通	60	2		△	○	○				○	○

○	照明実習 2	照明実習 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	レコーディング実習 1	様々な録音作業に対応できる技術と経験を、色々な機材セッティング、スタジオサイズにおいて実習を通じて学びます。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	レコーディング実習 2	レコーディング実習 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	ヴォイストレーニング 1	楽器（発声器官）の基本的な用法、技法を学ぶことで、それに対する認識を職業レベルまで高める訓練とします。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	ヴォイストレーニング 2	ヴォイストレーニング 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	コンサート制作 1	自ら立案したまたは要求された目標・目的を実行するシナリオを書き、それを効果的に実行するために必要な技能を訓練します。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	コンサート制作 2	コンサート制作 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	楽器演奏 1	楽器演奏（歌唱）技術の向上を目標に伝統的な技法、訓練、また個人の必要に合わせた様々な指導を行います。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	楽器演奏 2	楽器演奏 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	楽器アンサンブル 1	合奏に際して必要な技術、経験を個人的な技術音楽様式による特性、合奏の技術と心得など様々な視点から教授します。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	楽器アンサンブル 2	楽器アンサンブル 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	オーディション対策 1	特にオーディションの場でより良いプレゼンテーションができるため、企画、構成、マナー、見せ方、様々な視点の演習から学びます。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	オーディション対策 2	オーディション対策 1 の内容をさらに発展させ、個人の基礎技能の訓練も含めて、学びます。	2通	60	2		△	○	○					○	○
○	デビューコンテンツ制作 1	エンターテインメント・ビジネスの世界で効果的に用いられているコンピュータ・ソフトの中でも、とくに各分野で重用されているものについて、その基本動作から応用まで学びます。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	デビューコンテンツ制作 2	デビューコンテンツ制作 1 の内容をさらに発展させ、個人の基礎技能の訓練も含めて、学びます。	2通	120	4		△	○	○					○	○

○	○	業界研修	業界現場である各種施設で、実際の仕事を体験し、自己研鑽の場とすると共に、就職活動に役立ってます。	2通	180	6		△	○	○	○	○
○		舞台機構	パフォーマンスの背景としてステージに欠かせない要素を様々な視点から考察、演習し、実際のステージでの試みも行います。	1通	60	4		○	○	△	○	
○		進級制作	1年間の総括として、各自の進路に見合った課題に対して、個人又は共同で制作活動を行い、審査を受けます。	1通	120	8		○	○	△	○	○
○		卒業制作	卒業年度の総括として、各自の進路に見合った課題に対して、個人又は共同で制作活動を行い、審査を受けます。	2通	180	12		○	○	△	○	○
合計				30科目	1,800単位時間(88単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
2年間のうちに1,800時間を履修し単位を取得すること。卒業認定された者。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地			
仙台コミュニケーション アート専門学校専門学校	平成19年3月29日	学校長 濱田 敏幸	〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺2-1-11 (電話) 022-292-2122			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人 滋慶文化学園	平成8年3月13日	理事長 覚野 博夫	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町21-2 (電話) 03-6734-2939			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽コミュニケーション科昼間Ⅱ部	平成21年文部科学省 告示第21号			
学科の目的	本校は、本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、文化・教養専門課程及び衛生専門課程を設置し、音楽ビジネス、商業デザイン、エコロジー、食並びに健康に関する専門的知識並びに技能を修得させ、もってその分野で貢献できる専門家及び指導者の養成を図ることを目的とする。					
認定年月日	平成27年2月17日					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技
2年	1800時間	300時間	540時間	960時間	0	0
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人	70人	1人	5人	25人	30人	
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日 ■3学期:		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、出席状況にて評価を実施		
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 3月20日～4月9日		卒業・進級 条件	出席率と学科試験点数により、進級・卒業に必要な単位を取得していること。		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任制度、三者面談、 SSC(チュードントサービスセン ター)		課外活動	■課外活動の種類 同好会・サークル活動など ■サークル活動: 有		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) PA会社、照明会社、舞台制作会社、コンサート制作会社、テ レビ番組制作会社など ※上記以外に主として、芸能プロダクションとの所属契約(デ ビュー)を指す ■就職指導内容 業界研究指導、業界研修前指導、企業説明会前指導、履歴 書作成指導、面接指導、ビジネスマナー指導 ■卒業者数 34 人 ■就職希望者数 16 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 47 % ■その他 ・進学者数: 6人 ・芸能プロダクション所属: 1人 ・声優養成所所属: 11人 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) 資格・検定名 種 受験者数 合格者数 照明技術者2級技能認定 ③ 舞台機構調整・技能検定 ③ ESCOコミュニケーションスキルアップ検定 ③ ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当す るか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		
中途退学 の現状	■中途退学者 6 名 ■中退率 7.9 % 平成29年4月1日時点において、在学者76名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者70名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更、病気・治療、学生生活不適合 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、保護者面談、三者面談、補修、課題提出					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 滋慶特別奨学制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無					
当該学科の ホームページ URL	http://www.sendai-com.ac.jp					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わ)

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携について、従来、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現にむけ、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、講師授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催しています。この度、新たに設置する教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見も、より詳細に教育内容に反映させることを目的とします。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっています。また、学校運営においては教務組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、このために従い、委員会を運営します。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鹿野 佐一	内閣府公認公益社団法人 全日本司厨士協会 関東総合地方本部宮城県本部	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
榊澤 明	Bistoro Hare-masu	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
目等 進	(一社)日本音楽スタジオ協会(JAPRS)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
小池 正邦	㈱東北共立	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
橋本 徳郎	㈱フォーパックス	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
溝川 誠司	公益社団法人 日本広告制作協会 教育支援部会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
今野裕介	㈱エクスマインド	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
佐山 義則	公益財団法人日本生態系協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
遠藤 敏也	㈱RIDGEWYN'S JAPAN	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
今野直明	Patisserie genki	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
吉田 孟史	学校法人滋慶文化学園 常務理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
濱田 敏幸	仙台コミュニケーションアート専門学校 学校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
田中 実	仙台コミュニケーションアート専門学校 副校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
村山 洋樹	仙台コミュニケーションアート専門学校 事務局長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
坪沼 和寛	仙台コミュニケーションアート専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
石川 一也	仙台コミュニケーションアート専門学校 副校長/教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
渡邊 康祐	仙台コミュニケーションアート専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
坂本 訓勸	仙台コミュニケーションアート専門学校 教務部長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数及び開催時期:年2回6月、2月に開催予定。また、委員会欠席者に対しては、個別に意見聴取を行うなど必要に応じて適宜分科会を開催することがあります。

(開催日時)

第1回 平成29年 6月17日 13:30～15:30

第2回 平成30年 2月17日 13:00～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

退学率の軽減について意見交換をおこなった。また、音楽コミュニケーション科が主体的に取り組んでいるミュージカル「Hospital of Miracle」の演出等について具体的な改善内容について検討を行った。さらに、音楽系の分離独立を目指している2020年度に向けて様々なご意見をいただいた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

3つの教育理念(実学教育・人間教育・国際教育)を掲げ、業界が求める人材を業界と共に育成する(産学協同教育)という考えのもと、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、学生が目指す職業に必要な知識・技術を指導している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。非常勤講師と学校が協議し作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標への達成度並びに学期毎の定期試験の結果をもって総合的に評価されます。また、授業実施後の連携も密にし、以降の授業改善にも反映させます。更に、業界研修(インターンシップ)を実施し、企業の担当者の指導の下、現場体験を深め、更なる即戦力としての知識・技術等の習得を行います。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンサート制作1	共同作業においての人間関係を積極的に保つためのマナーを実際の作業を通じて学び、コミュニケーション力を実習的な作業を通じて学び、コミュニケーション・スキルを高める訓練をします。	流行天国工房、THE MODERN WORLD、有限会社 ナオプラン
PA実習1	ステージ上を効果的に演出する技術としてのPA、ライティングについて、基本的な機器のオペレーションから現場までのコミュニケーションまで、実習を通じて学びます。	株式会社 東北共立
照明実習1	舞台を視覚的に演出する照明効果との関係で、さらにその効果を高める要素、音響、舞台美術についても学習します。	株式会社 東北共立

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。中途退学者防止に向けた「学生ひとり一人」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心に据え、ファカルティ・ディベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の二つの要素が年間を通じた授業内容に反映されるよう研修を行う。

①キャリア教育の視点、②ひとり一人を見て行く視点

さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議においてこの方針を共有し、授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を実施している。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

「パフォーミングアーツ教育部会」(連携企業等:滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年6月22日(木)、平成29年12月13日(水)、平成30年2月28日(水) 対象:教務部長、学科長

内容:音楽業界の動向と専門分野の実務に関する知識・技術について、インターナショナルプログラムにおけるケーススタディ、基礎力向上のための技術について

②指導力の修得・向上のための研修等

「FDセッションコーチ勉強会」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年6月7日(水) 対象:①FDミクロレベル・レベルアップ研修修了者で学科長クラス以上②FDミドルレベル研修修了者③FDマクロレベル研修修了者の何れかの条件を満たす者

テーマ:学習促進型コーチングを用いた事例検討におけるコーチ役を育成する

内容:○研修の目的○学習促進型コーチング(セッションコーチの役割と留意点、デモセッション)○スクリプトシートに基づく演習と振り返り

「FDマクロレベル研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年10月12日(木) 対象:事務局長、教務部長(教務責任者)

テーマ:滋慶学園の3つのポリシーから、自校の課題を明確にし、教育戦略を考え第6期5ヶ年計画において滋慶学園の3つのポリシーと各校の3つのポリシーを根付かせる 内容:○FD研修の体系と構成について○これまでのFDマクロレベル研修の学びについて(事例報告:学生情報システムについて)○昨年の研修後の各校の取組みについて(事例発表、グループワーク)○滋慶学園の3つのポリシーについて○滋慶学園の3つのポリシーに対する取組みについて(3つのポリシーの作成ポイント～中教審の資料より～、3P検討委員会と3つのプロジェクトについて)○学校の3つのポリシー具現化への取組みについて(各校ごとにワーク)○振り返り

「マネジメント研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)

期間:平成29年10月24日(火) 対象:学校長/顧問/各校・各企業のマネージャークラス

テーマ:マネジメント教育について

内容:○浮舟総長講演○滋慶学園グループの歩み○パネルディスカッション/テーマ:「スペシャリストのマネジメント」

①専攻分野における実務に関する研修等

「パフォーミングアーツ教育部会」(連携企業等:滋慶教育科学研究所)
 期間:平成30年6月22日(金)、平成30年12月(予定)、平成31年3月(予定) 対象:教務部長、学科長
 内容:業界から求められる即戦力となる人材育成のための最新情報交換、教員に求められる知識・技術の修得
 「デジタル伝送技術研修会」(連携企業等:一般社団法人日本音楽スタジオ)
 期間:平成30年9月20日(木) 対象:音楽系専門学校教職員
 内容:基礎的なデジタル伝送技術と今後のスタジオビジネスに向けた勉強会

②指導力の修得・向上のための研修等

「FDセッションコーチ勉強会」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:平成30年6月5日(火) 対象:①FDマイクロレベル・レベルアップ研修修了者で学科長クラスもしくは、学科長が推薦する方 ②FDミドルレベル研修修了者③FDマクロレベル研修修了者
 テーマ:学習促進型コーチングを用いた事例検討におけるコーチ役を育成する
 内容:○研修の目的○学習促進型コーチング(セッションコーチの役割と留意点、デモセッション)○スクリプトシートに基づく演習と振り返り○まとめ
 「学科長対象FDマイクロレベル研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:平成30年7月18日(水)～19日(木) 対象:学科長以上、またはそれに準ずる方
 テーマ:①FDマイクロレベル研修の目的およびプログラム内容を理解し、スタッフの成長を促進することができる②「滋慶学園グループにおける授業のあり方」に沿って、授業改善のコーチングができる
 内容:○FD研修の目的○滋慶学園グループのFD研修体系について○授業デザインとは○ティーチングの基本スキル○授業リフレクション○クラス運営のセオリー～専門学校の担任とは～○アクティブラーニングの理論と演習○公開授業までの取組みとその方法について
 「マネジメント研修」(連携企業等:一般社団法人滋慶教育科学研究所)
 期間:平成30年10月24日(水) 対象: 学校長/顧問/各校・各企業マネージャークラス
 内容:未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者ともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に活かすことを方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	教育理念・目的・育成人材像

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員より各項目について3段階評価で概ね「優れている」との評価を頂いた。また、「コミュニケーション能力の更なる向上」「中途退学者の低減」「社会人基礎力の向上」など多くのご意見も頂いた。運営会議、リーダー会議、学科会議、全体会などで、これらの意見を共有に向けた検討・環境準備に取り組んでいます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
新田 彩香	卒業生	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生代表
光山 英子	保護者	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	保護者代表
小笠原 朋之	聖ドミニコ学院中学校高等学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	高等学校関係者
阿部 耕治	東八中央親交会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	地域関係者
小池 正邦	㈱東北共立	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
遠藤 敏也	㈱RIDGEWYN'S JAPAN	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
榭澤 明	Bistoro Hare-masu	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
今野直明	Patisserie genki	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
今野裕介	㈱エクスマインド	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()) 公表時期: 平成30年9月30日

URL: <https://www.sendai-com.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実施方針において提起された目標(指導方法のイノベーション、中途退学防止、卒業後の離職防止等)を具体化するため、企業等からヒアリングを行い、業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法としては、業界関係者である兼任教員と教職員の間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等について審議を行い、そこで出された意見を反映させています。また、業界研修(インターシップ)においては、実習先へ教員が訪問し、学生の実習状況はじめ、学校・学科運営に対する意見を聞き取る等を実施し、意見集約とその反映を行っています。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、学校の沿革、建学の理念、その他の諸活動に関する計画
(2) 各学科等の教育	シラバス、進級・卒業要件等、学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等、資格取得、検定試験合格の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員数、学校組織図、教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、就職支援への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介、学校行事への取り組み状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い
(8) 学校の財務	財務資料
(9) 学校評価	学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ状況、外国の学校等との交流状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.sendai-com.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 音楽コミュニケーション科Ⅱ部)平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			英会話	国際性を高める学習の一環として、日常英会話や学生生活、音楽活動に必要な英語表現を学びます。	1通	60	4	○			○			○		
○			音楽史	現在の音楽に至るまでの移り変わりを、様々な視点、音楽ビジネスや社会情勢との関わり、それぞれの国・地域の文化/文明、音楽美学/理論、等から考慮し、今後の音楽に対する先験的独創性、適応性を養います。	1通	60	4	○			○				○	
○			IT(information technology)	コンピュータを使用する上で必要となるネットの基礎知識、技術の基礎テクニックを習得します。	1通	60	4	○			○				○	
○			著作権	現代におけるビジネス面の問題解決に必要な知識やコミュニケーションスキルを、コンピュータをツールとして学びます。	1通	60	4	○			○				○	
○			イヤートレーニング	様々な音楽様式の聴取と、その経験によって得られた理論を学び、記譜された音楽に対する順応力を高めます。	1通	60	4	○			○				○	
○			楽器知識	機材のオペレーションだけでなく、エンジニアとして必要な、電氣的な知識や機器の構造の知識、調整、メンテナンスから学びます。	1通	60	4	○			○				○	
○			音楽理論 1	音の特性を礎に歴史と文化の中で編み出された楽典の基礎を学びそれぞれの創造過程において応用する原理までを学びます。	1通	60	4	○			○				○	
○			音楽理論 2	様々な音楽様式の聴取とその経験の融合によって得られた理論を訓練し(学び)演奏、制作、に活用する術を学びます。	2通	60	4	○			○				○	
	○		PA実習 1	ステージ上を効果的に演出する技術としてのPA、ライティングについて、基本的な機器のオペレーションから現場までのコミュニケーションまで、実習を通じて学びます。	1通	60	2		△	○	○				○	○
	○		PA実習 2	PA実習 1の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○				○	○
	○		照明実習 1	舞台を視覚的に演出する照明効果との関係で、さらにその効果を高める要素、音響、舞台美術についても学習する。	1通	60	2		△	○	○				○	○

○	照明実習 2	照明実習 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	レコーディング実習 1	様々な録音作業に対応できる技術と経験を、色々な機材セッティング、スタジオサイズにおいて実習を通じて学びます。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	レコーディング実習 2	レコーディング実習 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	ヴォイストレーニング 1	楽器（発声器官）の基本的な用法、技法を学ぶことで、それに対する認識を職業レベルまで高める訓練とします。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	ヴォイストレーニング 2	ヴォイストレーニング 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	コンサート制作 1	自ら立案したまたは要求された目標・目的を実行するシナリオを書き、それを効果的に実行するために必要な技能を訓練します。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	コンサート制作 2	コンサート制作 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	楽器演奏 1	楽器演奏（歌唱）技術の向上を目標に伝統的な技法、訓練、また個人の必要に合わせた様々な指導を行います。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	楽器演奏 2	楽器演奏 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	楽器アンサンブル 1	合奏に際して必要な技術、経験を個人的な技術音楽様式による特性、合奏の技術と心得など様々な視点から教授します。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	楽器アンサンブル 2	楽器アンサンブル 1 の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	4		△	○	○					○	○
○	オーディション対策 1	特にオーディションの場でより良いプレゼンテーションができるため、企画、構成、マナー、見せ方、様々な視点の演習から学びます。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	オーディション対策 2	オーディション対策 1 の内容をさらに発展させ、個人の基礎技能の訓練も含めて、学びます。	2通	60	2		△	○	○					○	○
○	デビューコンテンツ制作 1	エンターテインメント・ビジネスの世界で効果的に用いられているコンピュータ・ソフトの中でも、とくに各分野で重用されているものについて、その基本動作から応用まで学びます。	1通	60	2		△	○	○					○	○
○	デビューコンテンツ制作 2	デビューコンテンツ制作 1 の内容をさらに発展させ、個人の基礎技能の訓練も含めて、学びます。	2通	120	4		△	○	○					○	○

○	○	業界研修	業界現場である各種施設で、実際の仕事を体験し、自己研鑽の場とすると共に、就職活動に役立ってます。	2通	180	6		△	○	○	○	○
○		舞台機構	パフォーマンスの背景としてステージに欠かせない要素を様々な視点から考察、演習し、実際のステージでの試みも行います。	1通	60	4		○	○	△	○	
○		進級制作	1年間の総括として、各自の進路に見合った課題に対して、個人又は共同で制作活動を行い、審査を受けます。	1通	120	8		○	○	△	○	○
○		卒業制作	卒業年度の総括として、各自の進路に見合った課題に対して、個人又は共同で制作活動を行い、審査を受けます。	2通	180	12		○	○	△	○	○
合計				30科目	1,800単位時間(88単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
2年間のうちに1,800時間を履修し単位を取得すること。卒業認定された者。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。